

ARTA
AUTOMOBILES RACING TEAM AGURI
DIGITAL
2016

2016 SUPER GT Rd.7 THAI

GREAT BLESSING IN THAILAND

「南国の幸運、來たる」

ARTA
AUTOMOBILES RACING TEAM AGURI

Project



日本とは何もかもが違う南国のタイにやってくれば、不思議と心も開放的になる。

ホテルが停電に見舞われたり部屋にトカゲが出没したりといったハプニングも、

異国ならではとARTAの面々は楽しんだ。

そんなスタンスがプラスに作用したのか、鈴鹿や菅生に似た特性を持つブリーラムのサーキットでARTAの2台は好走を見せた

GT500クラスを戦う8号車ARTA NSX CONCEPT-GTは予選4位を獲得し、

前戦鈴鹿では性能調整で大きく速さを削がれたGT300クラスの55号車ARTA BMW M6 GT3もセットアップが決まって予選5位を得た。





「野尻がえづいてきました（笑）」

4番グリッドでスタートを待つ緊張感に包まれた野尻智紀を見てスタッフの一人が笑う。

「ちょっと様子見てイージーに行くね」スタートドライバーを務める松浦孝亮は冷静だった。

55号車のステアリングを握る高木真一は混戦の中で悪戦苦闘するが、なんとかポジションを守る。

「誰、11号車？ ぶつけまくってきたぞお！ ストレートでガンガンぶつけてくるんだもん！」

それでもレース戦略を考えて冷静さを取り戻しタイヤをマネージメントしながらレースを進めていく。



『左のリアタイヤがキツそうだから、特にいたわってるよ。
ランボルギーニよりはセクター3が速いから、ランボには抜かれる気はしないね。
11号車はストレートはそんなに速くないけどコーナーが速い。
マザーシャーシ、速えじゃねえかよ！ 全然ストレート速いんだけど！』
高木はタイヤをいたわるために敢えて上位とのバトルはしないが、
必要とあらばいつでも攻めていけそうな速さがあった。
「真一、ペース良いよ。そのまま行こう」
エグゼクティブディレクターの土屋圭市が高木の走りを褒める。



しかしエンジニアの一瀬俊浩は早めにピットストップをして
前がクリーンなところで本来の速さを生かす戦略を提案した。

「おそらく単独で走った方が速いので、ミニマムで入れて無交換で行こうかと考えています」
燃料をフルタンクまで給油して、そこから最後までレースを走り切ることができるタイミング。
その最低限のところで一瀬は高木をピットに呼び入れ、小林崇志にドライバーチェンジをする。
当初の狙い通りタイヤは交換せず、ピット作業の時間を短縮して最後まで走り切る。
「小林、集中していけよ！」土屋アドバイザーが檄を飛ばした。

一方、8号車のステアリングを握る松浦はマシンの変調に苦しみ始めていた。
タイヤの内圧が上がり、ブレーキングで攻めるとロックアップしてしまう。
ペースが上げられず、後方からは同じホンダNSX CONCEPT-GTを走らせる
64号車からプレッシャーを受けてしまう。

「ちょっと内圧が上がり始めてきた」
「なんとか前のクルマについていきましょう」
エンジニアの星学文が松浦を元気づける。
「OK、ちょっとプッシュするね」「お願いします」
その言葉通り、松浦はペースを上げてきた。



「今だと15号車より速い。このペースで行けば37号車に追い付けますよ」

「今、ナカキ（64号車）がすごく速いんだよ！」

「ここ踏ん張りましょう、64号車に前に行かれると後で面倒なことになります」

しかしこの状況ではペースアップが望めそうもないで、チームは早めのピットストップで野尻にバトンタッチし、フレッシュなタイヤでペースアップする作戦を考えていた。

そんなことを相談している矢先に、最終コーナーで周回遅れの

GT300クラスの車両と接触するあわやという場面もあった。

「ああ～、もう！ XXXトラフィック！」思わず声が出る。

55号車同様に8号車もミニマムの周回数でピットへと戻り、野尻へとドライバー交代をすることとなった。





「野尻、今ポジション11だからね。27秒台をキープして行けよ！」

他車がピットに向かい、ポジションは10。

さらに56周目には前走車が接触で後退する幸運もあった。

「あと9周、前は36号車、後ろは46号車が来てる。ポジション9」

「良いペースだよ、前の36号車は27秒台だから、今のペースを重ねるよ」

エンジニアの星が逐一情報を伝え、野尻を鼓舞する。

そして最終ラップにはとうとう前の36号車を捕まえて

8位までポジションを上げてチェックカードフラッグを受けた。

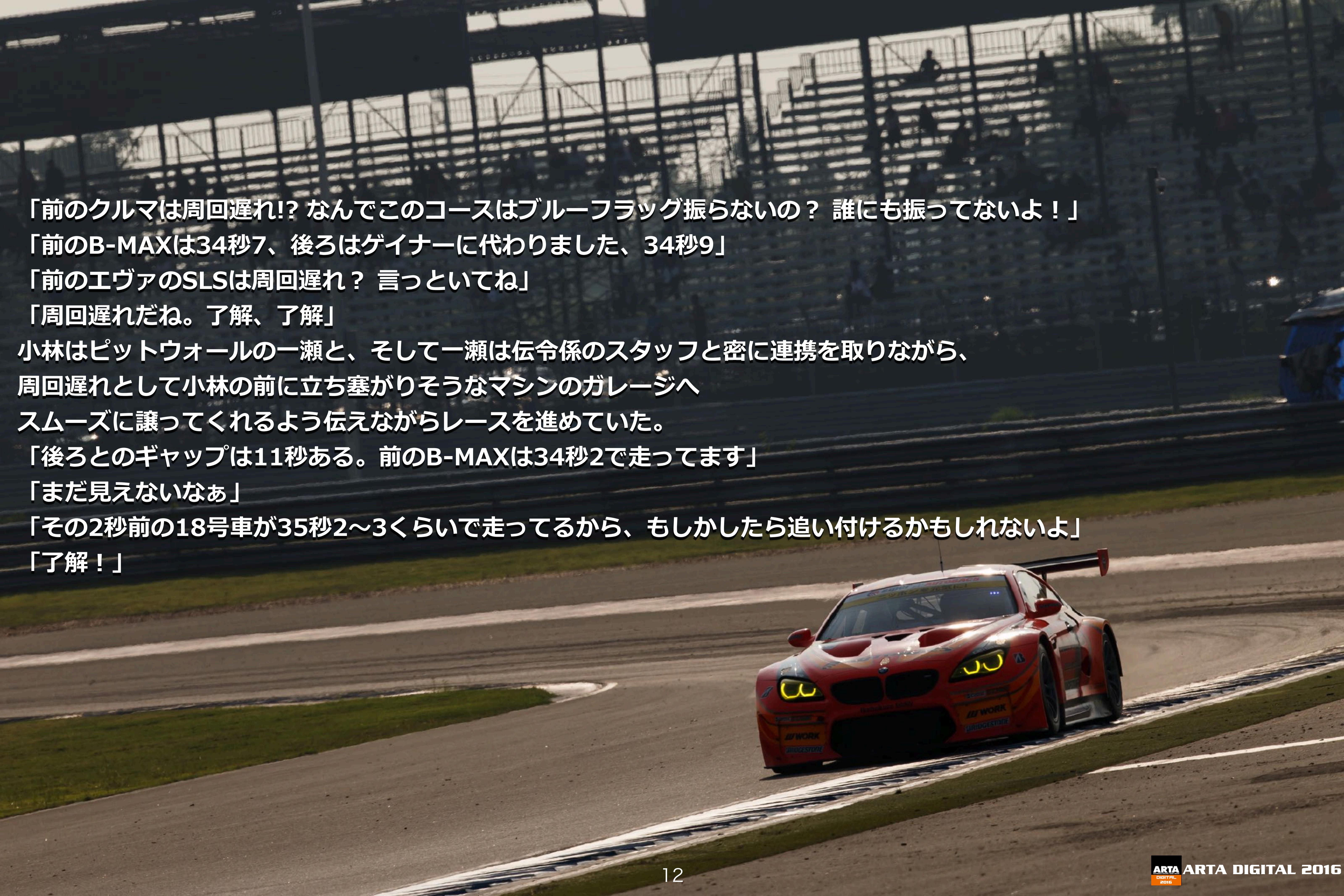
「野尻お疲れ様、最後36号車を抜けて良かったね！ ポジション8です」



一方、小林にバトンタッチした55号車もタイヤの変調に耐えながらのレースを強いられていた。
「内圧がかなり上がってる。結構ツラい。左フロントが結構ツラい。全然グリップがない」
そうは訴えながらも、小林は気持ちを強く持ってステアリングを握り続けていた。
「燃料が軽くなってきたらまたペースが上げられるかもしれないから頑張るよ」

タイヤ無交換での走行だけに、小林には忍耐が必要だった。
タイヤを最後まで保たせるためには、必要以上に攻めることはできない。
それに加えてこのタイヤの変調。
性能調整によるターボの過給低下もあり、周回遅れを処理するのも一苦労で緊迫した時間が続いた。





「前のクルマは周回遅れ!? なんでこのコースはブルーフラッグ振らないの？ 誰にも振ってないよ！」

「前のB-MAXは34秒7、後ろはゲイナーに代わりました、34秒9」

「前のエヴァのSLSは周回遅れ？ 言つといてね」

「周回遅れだね。了解、了解」

小林はピットウォールの一瀬と、そして一瀬は伝令係のスタッフと密に連携を取りながら、周回遅れとして小林の前に立ち塞がりそうなマシンのガレージへスムーズに譲ってくれるよう伝えながらレースを進めていた。

「後とのギャップは11秒ある。前のB-MAXは34秒2で走っています」

「まだ見えないなあ」

「その2秒前の18号車が35秒2～3くらいで走ってるから、もしかしたら追い付けるかもしれないよ」

「了解！」



小林からは力強い答えが返ってきた。すると、思わぬ幸運が舞い込んできた。

「18号車がスローダウンしてる。今抜いた」

「了解、ポジション3だよ。頑張って！」

これで55号車は表彰台圏内へと進んだ。

「後ろとのギャップを教えて。それは守るよ」

「ギャップは10秒ある。今34秒9で走ってる」

「35秒前半から真ん中くらいでラップできるように頑張る」

「了解、それでOK」

「頼むぞ、小林！ 表彰台だ！ 集中していこう！」

土屋も一丸となって表彰台獲得に向け力が入る。



「高木さんから『前のB-MAXは無視して良いからタイヤいたわって』って
どうしても表彰台が欲しい。この日のARTAには、ひとつの理由があった。

このタイ戦を最後にチームを離れ渡英するスタッフがいたのだ。

のために、どうしても表彰台という結果で送り出したかったのだ。

レースは残りあと僅か。そんな時、小林から驚くような無線が飛び込んできた。

「ガス欠かもしれない！ パワーがない！ パワーがない！」

緻密な計算をしてピットタイミングを決め、しっかりとフルタンクで送り出したとはいえ、
実際に走行すれば多少の誤差が生じることもある。

「何かアラーム出た？ マップ6にして！」

「何も出てない。今は普通に走ってるけど……」

「後ろとのギャップは10秒あるから、セーブしていこう」





ファイナルラップに入り、ARTA BMW M6 GT3のエンジンはバラツキが出始めた。

ガス欠の症状だ。いつ止まってもおかしくない。

緊張の中、小林はなんとか最終コーナーを立ち上がり、コントロールラインへ。

「よおし！ 小林！ 3位だあ！ やったぞお！」

土屋が無線で叫ぶ。「良かったあ～、良かったあ～」

ホッとした様子の小林は、このレース限りでチームを離れるスタッフに向けて無線で語りかけた。

「アラキ、今までありがとう、表彰台で待ってるよ、いっぱいぶっかけてやるよ！」

「小林さん、ありがとう！ 皆さん本当にありがとうございます。表彰台、最高です！」

「これで心置きなくイギリスに行けるね。今まで本当にありがとう。



4位を走ってた時はもう表彰台は見せられないかなと思ったし、ラッキーもあったけど、本当に良かった」
小林がそう言うと、土屋がすかさず返した。

「ラッキーじゃないよ、お前と真一の力だよ」

「そうですね、運も実力のうちってヤツですかね。昨日のトカゲが幸運を呼んでくれたんじゃないですか？」

「あれはオレたちの守り神だな！」

「持つて帰れば良かったですね」

「小林にプレゼントする！」

「ノーサンクスでお願いします！」

冗談めかして言ったが、コクピットの中の小林はタイの暑さで疲労困憊していた。

それでもチームメイトのはなむけにはが非でも欲しかった表彰台を手に入れた喜びは大きかった。

努力は報われる。その言葉の意味を、しっかりと噛み締めた。

今シーズンの最終ラウンドとなる1ヶ月後のツインリンクもてぎでは、

中止となつたオートポリス戦の代替戦が土曜に組み込まれ、2レースが行なわれる。

8号車、55号車ともにタイで得た強さを、その2戦に振り絞ってシーズンを締めくくらなければならない。

それこそが、タイで得た最大の教訓だったのだから。



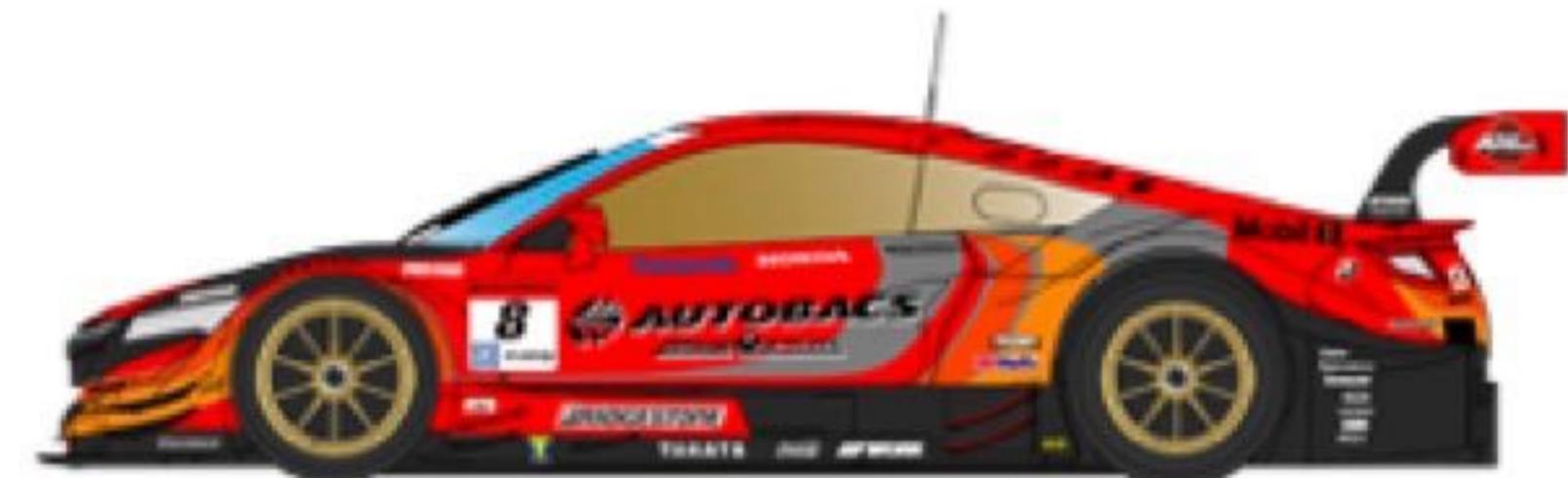


RESULT

GT500

ARTA NSX CONCEPT-GT

松浦 孝亮 / 野尻 智紀



| 公式予選 | 決勝 | TIME DIFF | BEST LAP | ドライバーズランキング |
|------|----|-----------|----------|-------------|
| 4位 | 8位 | 42.193 | 1'26.295 | 13位 |

GT300

ARTA BMW M6 GT3

高木 真一 / 小林 崇志



| 公式予選 | 決勝 | TIME DIFF | BEST LAP | ドライバーズランキング |
|------|----|-----------|----------|-------------|
| 5位 | 3位 | 25.879 | 1'34.476 | 2位 |







株式会社オートバックスセブン



ARTA Project



ARTA DIGITAL
Youtubeチャンネル

To be continued next race....



Copyright c2014 ZEROBORDER INC. All rights reserved. No reproduction or republication

Director and Photographer : Masakazu MIYATA
Text : Mineoki YONEYA
Design and Web Creator : Akira YOSHIDA

Special Thanks : AUTOBACS SEVEN CO.,LTD